



# La Remote

## USER MANUAL



Video [https://www.youtube.com/watch?v=mL6PM2tTm3U&ab\\_channel=TrinnovAudio](https://www.youtube.com/watch?v=mL6PM2tTm3U&ab_channel=TrinnovAudio)



---

<b>1. ABOUT LA REMOTE.....</b>	<b>4</b>
1.1 Overview.....	4
1.2 DEVICE COMPATIBILITY.....	5
1.3 Wiring Setup.....	5
1.4 BEFORE YOU START.....	6
<b>2. USING LA REMOTE WITH ST2 PRO/MC.....</b>	<b>7</b>
2.1 VOLUME.....	7
2.2 SETUP.....	7
2.3 LAYERS.....	8
<b>3. USING LA REMOTE WITH A D-MON.....</b>	<b>10</b>
3.1 VOLUME.....	10
3.2 SETUP.....	10
<b>4. USING LA REMOTE WITH A NOVA.....</b>	<b>14</b>
4.1 VOLUME.....	14
4.2 SETUP.....	14
<b>Appendix.....</b>	<b>18</b>
Talkback microphone.....	18
Custom commands (D-MON のみ).....	18
Firmware update.....	18
<b>Trinnov App support.....</b>	<b>18</b>
<b>Troubleshooting.....</b>	<b>19</b>
<b>Mechanical specifications.....</b>	<b>20</b>



## Thank you for choosing Trinnov Audio !

このユニークなリモートコントローラーは、Trinnovプロセッサーの完璧なパートナーとなります。  
8つのカスタムキーと無制限のレイヤーで、複雑なセットアップに対応します。

モニターレベルは常に表示されており、常に一定の品質と信頼性を保つことができます。

## User Manual

このユーザーマニュアルの最新版は、Trinnov のウェブサイトから自由にダウンロードできます。

<https://www.trinnov.com/en/products/la-remote/#Downloads>

Copyright © 2020 by Trinnov Audio

すべての著作権は出版社に帰属します。ただし、批評の中での簡単な引用や、著作権法で認められているその他の非商業的な使用の場合はこの限りではありません。許可を得るためには、出版社の住所に "Attention: Permissions Coordinator" 宛てに、下記の住所まで手紙を送ってください。

Trinnov Audio  
5 rue Edmond Michelet,  
93360 Neuilly Plaisance  
France



## 安全に関する注意事項

本機の性能を十分に発揮させるために、このクイックスタートガイドに記載されている内容をよくお読みください。

- 本機をお使いになる前に、この説明書をよく読み、完全に理解してください。この説明書を保管してください。すべての指示に従ってください。
- 本機は、乾燥した平らな場所に設置してください。
- 本機は水に触れないようにしてください。本機を湿気、蒸気、煙、または過度の湿気や埃のある場所に置かないでください。また、水滴や水しぶきがかかるような場所に本機を置かないでください。
- お手入れは乾いた布で拭いてください。溶剤系の液体クリーナーは使用しないでください。
- 最大限に許容される動作条件 0℃～40℃、相対湿度20～65%。
- 雷雨時や長期間使用しない場合は、本機の電源を切ってください。
- 機器のケースを開けたり、カバーパネルを外したりしないでください。本機にはユーザーが修理できる部品はありません。

修理は必ず資格を持った人が行ってください。液体をこぼしたとき、雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき、落下させたときなど、何らかの原因で本機が損傷したときは、修理が必要です。承認されていないサービス/修理を行った場合、保証が無効になります。本機をメーカーの許可なく変更・改造すると、保証が無効になる場合があります。

- 本機を使用する際は、メーカーが指定するアタッチメントやアクセサリを使用してください。
- 本機は、プロオーディオ用のデジタル・コントロール・インターフェースで、USBスロットを備えたCE認定のクラスBコンピュータで使用します。
- 本機は、ヨーロッパのCE規格に準拠するために、CEが承認したクラスBのコンピュータで使用する必要があります。すべての接続ケーブルはシールドされている必要があります。
- また、本機に接続されているすべてのケーブルは、適切にアースされている必要があります。





# 1. ABOUT LA REMOTE

## 1.1 Overview

La Remote は Trinnov プロセッサ用に開発されたデバイスです。

La Remote には、メインボリュームの大きなノブ、セレクトノブ、9つのボタン、そしてトークバックマイクを備えています。

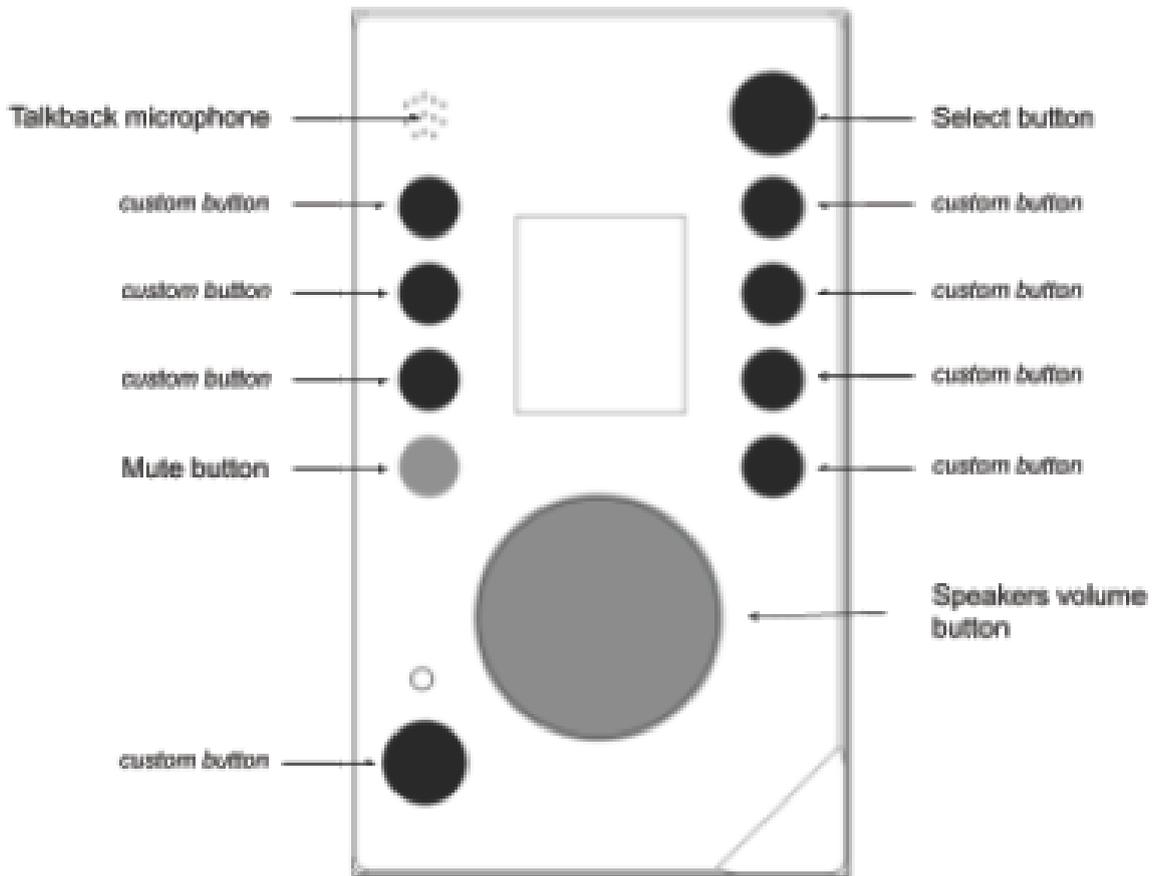
- ボリュームノブとミュートボタン(ライトグレー)の機能は固定です。これらは、アクティブなスピーカーセットのボリュームとミュートを制御します。
- それ以外のボタンはすべてカスタマイズ可能で、ユーザーが定義できる複数のレイヤーに渡って特定の機能を割り当てることができます。
- レイヤーを切り替えるには、右上のセレクトノブを使います。各ボタンの機能は画面に表示されます。また、ボタンの機能に応じて、ボタンのバックライトがその状態を知らせてくれます。

-12.0 dB

Music Stem

PGI 5.1

Cal. Level                      Mono  
Bypass                          Front  
Dim  
Next Spk





## 1.2 DEVICE COMPATIBILITY

Device	Setup Method	Features
ST2 Pro MC Processor	固定されたレイヤーと機能  Options は La Remote に直接設定	スタンダードな機能: <ul style="list-style-type: none"><li>● ボリュームコントロール(Mute, Dim, Refレベルリコール)</li><li>● ダウンミックス選択</li><li>● Source選択</li><li>● Preset と Profile のリコール</li><li>● スピーカー毎の グループ ソロ/ミュート</li><li>● ネットワーク設定</li><li>● Input / Output メーター</li><li>● Optimizer runtime オプション</li><li>● オーディオクロック</li></ul>
D-MON	ボタンとレイヤーのフルカスタマイズ可能  Web UI 上でドラッグ&ドロップして設定	スタンダードな機能に加え <ul style="list-style-type: none"><li>● Speaker set / Source / Snapshot のリコール</li><li>● ヘッドフォンのボリュームコントロール</li><li>● トークバック</li><li>● カスタム ログ表示</li><li>● Backup/Restoreの設定</li></ul>

## 1.3 Wiring Setup

La Remoteは、以下の方法で接続することができます。

- **DAW**コンピュータの**USB**ポート(キーボードやスクリーンに内蔵された**USB**ハブなどを經由して)に接続します。  
ネットワーク経由で La Remote を Trinnov Processor に接続するには、無償提供されている "Trinnov App" が必要になります。現在はmacOS版のみの提供です。詳しくは「[Trinnovアプリ](#)」の項を参照してください。
- **Trinnov**デバイスの前面または背面の**USB**ポートに直接接続します。

この方法は、DAWがシャットダウンされていたり、Trinnovアプリが起動されていない状態でも、リモートでの作業を継続できるという利点があります。USB延長ケーブル(パッシブ)を使用すると、最大3mまで延長することができます。それ以上の距離が必要な場合は、「LINDY USB 2.0 CAT5 Extender」のようなUSBエクステンダーを使用することができます。

外部電源は必要ありません。La RemoteはUSBバス電源を使用しています。USBハブやエクステンダーを使用する場合は、デバイスの消費電流が最大200mAになることに注意してください。



## 1.4 BEFORE YOU START

プロセッサとLa Remoteを同時に購入された場合、デバイスは最新のソフトウェアバージョンで提供されているはずですが。

すでにTrinnovプロセッサをお持ちで、La Remoteを購入された場合、Trinnovプロセッサが最新のソフトウェアバージョンで動作しているか、La Remoteのサポートが含まれているかどうかを確認する必要があります。

### 1.4.1 Update Your Trinnov Processor

Trinnov プロセッサのソフトウェアバージョンは、GUI の **About** のページに表示されています。また、製品登録後に [my.trinnov.audio](https://my.trinnov.audio) でお使いのプロセッサにインストールされているソフトウェアのバージョンを確認することができます。

Device	必要なバージョン	アップデート方法
ST2Pro MC Processors	3.8.4.2 以降	プロセッサをインターネットに接続し、Trinnov社代理店または <a href="#">こちら</a> からコンタクトしてください。
D-MON	4.2.2.18 以降	プロセッサをインターネットに接続し、 <a href="https://my.trinnov.audio">https://my.trinnov.audio</a> で製品登録を行い、 Trinnov社代理店または <a href="#">こちら</a> からコンタクトしてください。
Altitude	4.2.17 以降	

### 1.4.2 Update La Remote Firmware

ファームウェア (La Remote の内部ソフトウェア) も最新であることをご確認ください。

La Remoteを最新ソフトウェアがインストールされている Trinnovプロセッサまたは Trinnov App に接続すると、新しいファームウェアが利用可能な場合は、リモコンが点滅します。

La Remoteを最新のファームウェアバージョンにアップデートして最新の機能を利用するには、Google ChromeまたはMicrosoft Edge で [https://my.trinnov.audio/remote\\_update](https://my.trinnov.audio/remote_update) にアクセスし、指示に従ってください(注意: 画面に表示される指示は全て英語で表示されます)。

サイトを閲覧に使用するコンピュータに La Remote を接続する必要がありますのでご注意ください。

Trinnov社のサポートチームは、[support@trinnov.com](mailto:support@trinnov.com) でもサポートを受けつけています。



## 2. USING LA REMOTE WITH ST2 PRO/MC

### 2.1 VOLUME

画面の一番上のヘッダーには、常にマシンの現在の音量が表示されています。この音量には、DIM が加算されます。

表示の値は以下にセットすることができます：

- “dB” で相対スケール
- Calibration後に絶対値の “dB C” で

中央の大きなボリュームノブは、常に現在選択しているスピーカーセットのボリュームを制御します。

左側のミュートボタンは、常に現在選択しているスピーカーセットのミュートを行います。ミュートすると赤で点灯します。

**Important note:** Ref レベルを設定すると、La Remote上の表示は常に dB になります。



### 2.2 SETUP

**Important note:** 全ての設定は、La Remoteではなく Trinnov プロセッサーに自動的に保存されます。

La Remote の設定モードを起動するには、上部のセレクトボタンをダブルクリックし、画面中央部に現在の設定名と設定値を表示します。

このモードでは、セレクトノブで現在の値を変更することができます。

- セレクトノブを押すと次の設定にジャンプします。
- ダブルプッシュすると設定モードを終了します。

設定モードの間でも、Mute, ボリュームを含む他のすべてのボタンは有効です。

設定モードで設定可能な設定は、次のとおりです：

1. **Volume sensitivity adjustmen:** メインボリュームボタンの感度を0.5dBステップで、最大6dBまで調整することが可能です。
2. **Volume acceleration:** ボリューム感度が非常に細かい場合(0.5dB/ステップなど)に、極端な値に素早く到達することが困難な場合があります。Volume accelerationを有効にすると、回転速度に応じて1ステップあたりのdB値が増加します。
3. **Reference** ボリューム リコール レベル: 一定の作業レベルを設定することは重要です。これは最初のレイヤーで設定できます。この値は dBFS でボリュームの減衰値を表しています。絶対値である dBC 値を表示させたい場合は、Calibration後にTrinnovインターフェースの "Processor" タブ、"Master" サブタブ、"Level display offset" で "dBC" を選択してください。リコールされる値は、この "dBC" ボタンが作動していないときのものになります。
4. **Source Only** モード: ユーザーの誤使用を避けるため、利用可能なレイヤーの数を極限まで減らすことが可能です。このモードを有効にすると、ソースの選択とスピーカーのソロ, ミュートのみを残し、他のレイヤーは非表示になります。



5. **Screen backlight Lighting adjustment:** 画面バックライト点灯調整 画面のバックライトの明るさを調整することが可能です。
6. **Screen invert video:** 画面の表示を白黒逆にして見やすくすることが可能です
7. **Buttons lighting adjustment:** 環境に合わせてボタン点灯時の明るさを調整することができます。

## 2.3 LAYERS

あらかじめ設定され、固定されたいくつかのレイヤーが用意されています。現在の Trinnov ソフトウェアリリースでは、Trinnov マシン自体のパラメータをカスタマイズする以外、レイヤーを設定することはできません。

レイヤーは、マシンの現在の設定に応じて自己適応します。これは表示される機能がプリセットにより自動的に変更されることも意味します。

以下のレイヤーが利用可能です：

Layer	Display	Left Buttons	Right Buttons
Monitoring	Source name Preset name	Reference level recall	Source selection (設定されたものに応じて、利用可能なすべてのソースアイテムを表示するために、複数のレイヤーページが生成されることがあります)
		Bypass (Source only mode では非表示)	2つのSourceで: Speaker Solo Left & Right
		Bass management On/Off (サブウーファーがある場合)	1つのSourceで: Mono to Center / Moni to L/R Downmix
		Dim	
Meters	Input と Output メーター表示 最上部の表示は 0dBFS が上限 下のステップは、-6dBFS, -12dBFS, -24dBFS, -48dBFS メーターの下限は-76dBFS		
Speakers Solo & Mute	Speakers Solo/Mute	Solo / Mute mode (Talkback button) 全てのボタンにSpeakersが表示されます 7台までのSpeakerでは名前が表示されます 7台以上のSpeakerがある場合、Front, Center, Front L/R, Surround, Height, Sub	
Downmixes	Submixes	PresetにあるDownmixによる	
Presets	Presets	プロセッサに設定されたPresetによって、呼び出せるPresetの数は異なります。複数のページが生成されることがあります。 Built-in Preset は表示されません	
Profile (MCのみ)	Profiles	Profile毎に1つのボタン	
Network	Network IP Address	Ethernet Link Status Service Connection Status	Static Mode DHC Mode



---

	Mask		
Clock	Clock Mode Sampling Rate	Clock modes selection	
Optimizer	Optimizer	Acoustic Correnction On/Off Level Alignment On/Off Delay Alignment On/Off Bypass	Remapping 3D Remapping 2D Remapping Auto Remapping Off



## 3. USING LA REMOTE WITH A D-MON

### 3.1 VOLUME

画面の一番上のヘッダーには、常にマシンの現在の音量が表示されています。この音量には、DIM が加算されます。

表示の値は以下にセットすることができます：

- “dB” で相対スケール
- Calibration後に絶対値の“dB C”で
- Cinemaスケール(D-MONのみ)

中央の大きなボリュームノブは、常に現在選択しているスピーカーセットのボリュームを制御します。

左側のミュートボタンは、常に現在選択しているスピーカーセットのミュートを行います。ミュートすると赤で点灯します。

**Important note:** Ref レベルを設定すると、La Remote上の表示は常に dB になります。



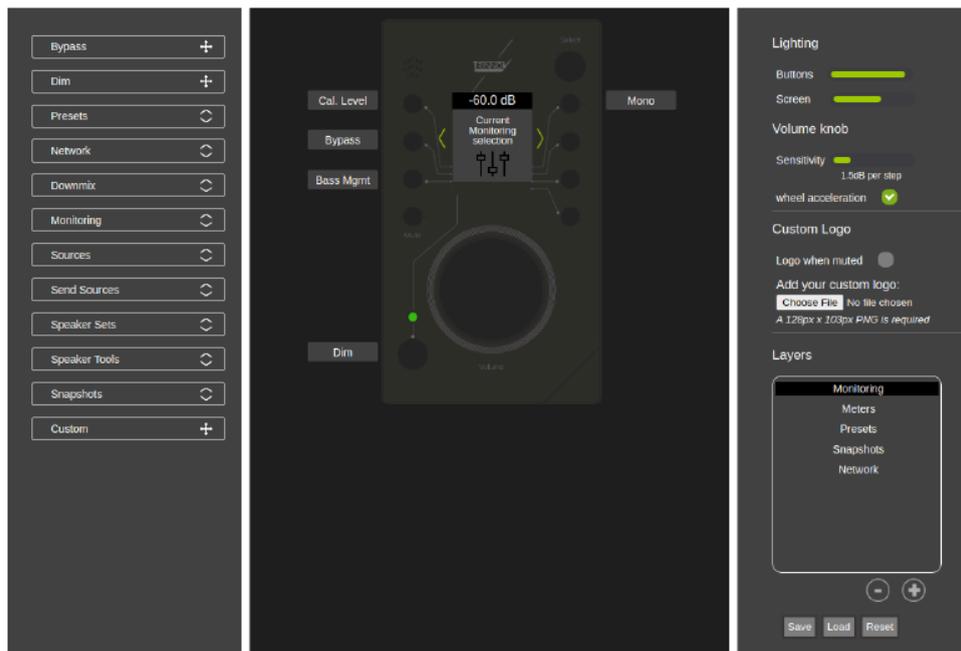
### 3.2 SETUP

La RemoteはD-MONと使用すると、専用のSetupページによりフルで設定が可能です。

Setupページには次の方法でアクセスできます：

- “Trinnov App” の Control メニューで “La Remote setup” を選ぶ
- Webブラウザで、次のURLにアクセスする：[http://<device\\_ip>/remote/setup.html](http://<device_ip>/remote/setup.html)

Setupページは次の様になっています。





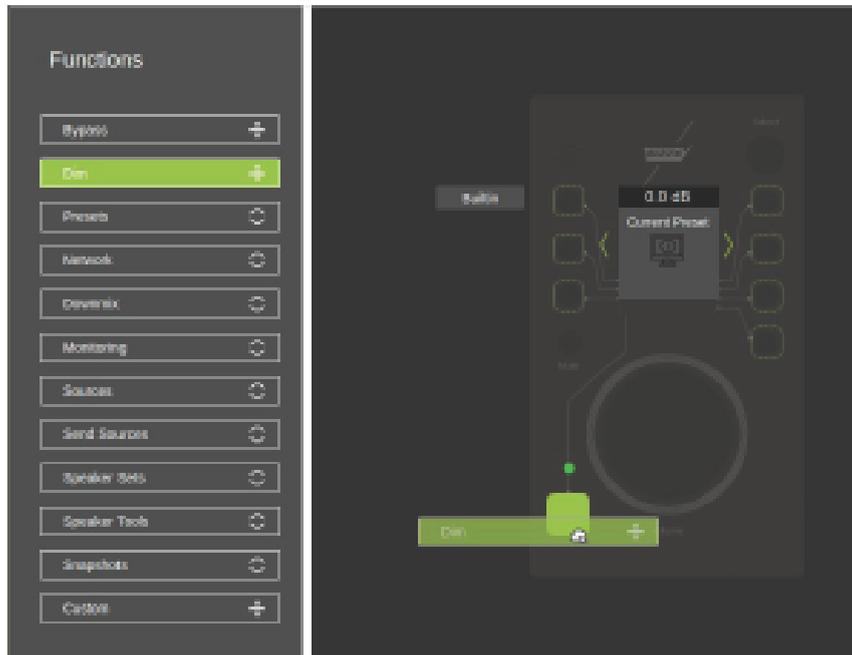
### 3.2.1 LAYERS

必要であれば ボタンのレイアウトを複数ページ作成することが可能です。この機能により、La Remoteの可能性が大きく広がります。

最初にデバイスを接続したとき、メインの調整用にデフォルトのレイヤーセットが作成されます。リセットボタンを押すと、最初に作成されたレイヤーセットに戻すことができます。リセットボタンを押すと、現在の設定に合わせて全く新しいレイヤーセットが自動的に生成されます。

レイヤーを表示、編集するには、右パネルにあるレイヤー名をクリックすると、中央のパネルに表示されます。ダブルクリックすると名前を変更できます。下部のマイナスボタンをクリックするとレイヤーが削除され、プラスボタンをクリックすると空白のレイヤーが新規作成されます。

あるレイヤーのボタンにアクションを割り当てるには、ボタンの左側にある機能をドラッグ & ドロップしてください。

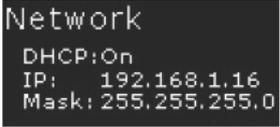
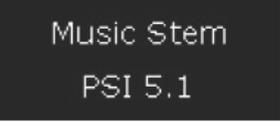


画面の中央部分(トップレベルとボタンアサインラベルの間)もカスタマイズ可能です。

以下のいずれかが選択できます：

Screen Function	詳細	使用できるマシン	スクリーンのサンプル
 Meters	マシンの出力メーターを表示	all	
 Current Preset	現在のPresetを表示	all	



 Network params	ネットワークIPとマスクを表示	all	
 Current speaker set and source(s)	現在選択しているスピーカーセットと、現在選択しているソースを表示します。複数のソースが選択されている場合 (Sumモード)、最初のソースの前に“+”が表示されます。	D-Mon	
 Headphone Volume	ヘッドフォンソースとボリュームを表示します。セレクトボタンをクリックすると、ヘッドフォンの音量が表示され、セレクトノブでヘッドフォンのゲインを調整します。セレクトボタンを新たにクリックすると、セレクトノブの通常のレイヤースイッチ機能に戻ります。	D-Mon	
 Speaker solo & mute	アクティブなスピーカーを表す小さなグリッドを表示する(塗りつぶし)、または表示しない(ボーターのみ)。サブウーファーには "S" が表示されます。	D-Mon	
 Snapshots	現在読み込まれているスナップショットがあれば、それを表示します。	D-Mon	
 Custom Logo	ロゴを表示します。“Custom logo”を参照してください。	all	



### 3.2.2 OTHER SETTINGS

Layout 以外の設定も可能です。

- **Lighting adjustment:** ライティングアジャストメントにより、環境に応じてLCDの視認性を細かく調整できます。ボタンと画面のバックライトの両方を個別にコントロールすることができます。
- **Volume sensitivity adjustment:** ボリュームノブ感度調整機能により、メインとなる大きなノブのフィーリングを細かく調整することができます。また、アクセルエンハンスメントを有効にすることで、ノブを速く動かすと素早くボリュームを変化させることが可能です。

### 3.2.3 Custom logo

128px/103pxのサイズのカスタムPNG画像をアップロードすることができます。この画像は、“logo”機能が選択されているすべてのレイヤーに表示することができます。

ボタンのラベルにミュートをかけると、このロゴが大きく表示されるようにすることもできます。この機能を有効にするには、右パネルの“ad hoc”ボタンをチェックしてください。



### 3.3.4 Backup & Restore

La Remote の設定は、自動的にTrinnovデバイスに保存されます。この設定をエクスポートすれば、後で再適用したり、別のデバイスに適用することができます。なお、ロゴを設定している場合は、エクスポートされたファイルには含まれませんので、別途バックアップを取る必要があります。



## 4. USING LA REMOTE WITH A NOVA

### 4.1 VOLUME

画面上部のヘッダーには、常にマシンの現在の音量が表示されます。音量の数値には DIM も反映されますので、注意してください。

表示値は次のように設定できます：

- “dB” での相対スケール、
- 一度 Calibrate すると絶対的な “dB C”



中央の大きな音量ノブは常にスピーカーの音量を制御します。



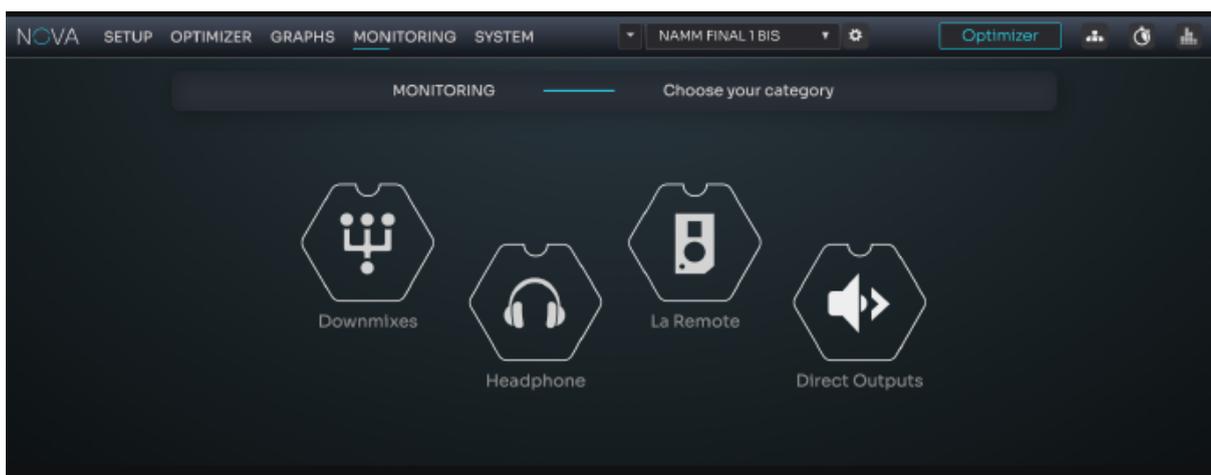
ミュート ボタンは常に現在のスピーカー セットのミュートを制御します。有効になると赤く点灯します。

重要な注意：リファレンス レベルが設定されている場合、La Remote は常に表示値に関係なく dB で表示されます。

### 4.2 SETUP

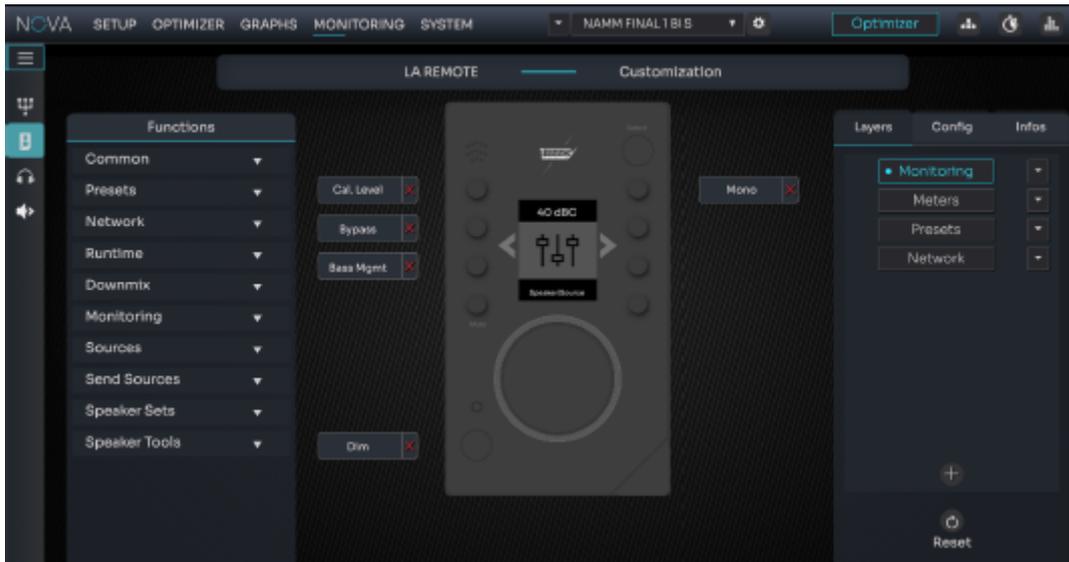
NOVA と使用する場合、La Remote は専用の設定ページから設定します。

**Monitoring** をクリックし、**La Remote** を選択してください。



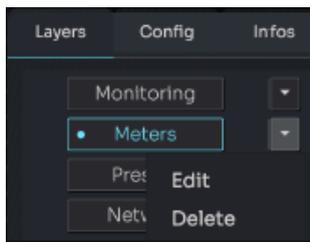


これが設定ページです:



## 4.2.1 LAYERS

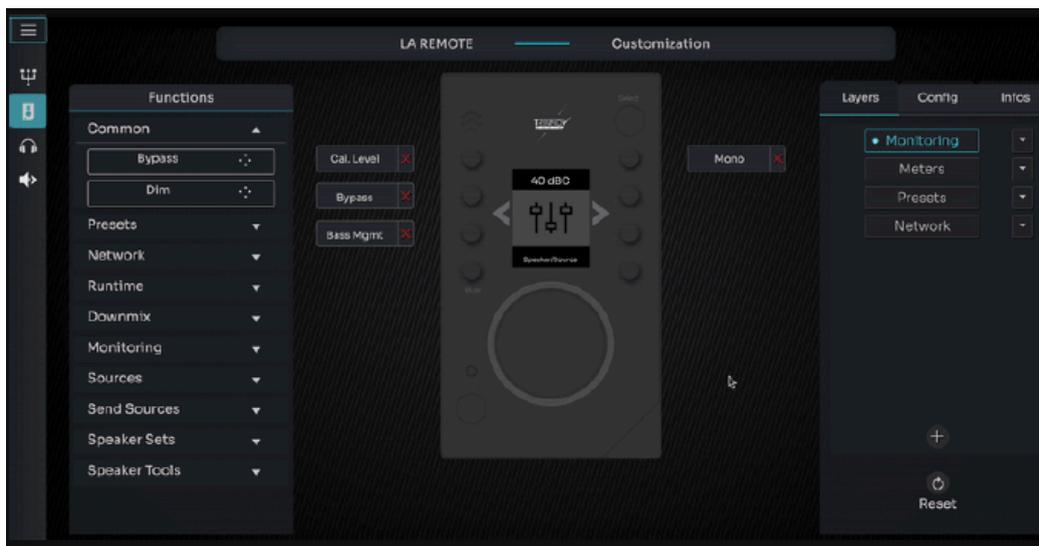
必要に応じて、ボタンレイアウトの異なる複数のページを作成することができます。この機能により、La Remoteの可能性が大幅に高まります。



初めて LaRemote を接続すると、主な調整用にデフォルトのレイヤー セットが生成されます。Reset ボタンを押すと、この自動的に生成されたレイヤー セットに戻すことができます。リセットすると、現在の設定に従って 新しいレイヤー セットが自動的に再生成されます。

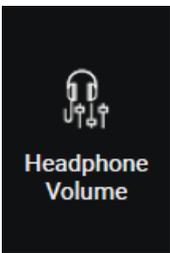
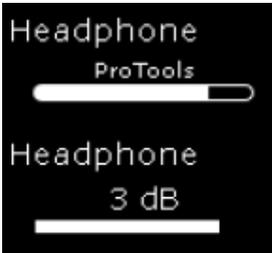
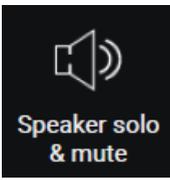
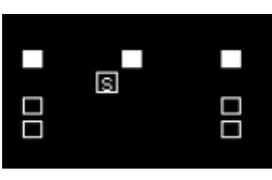
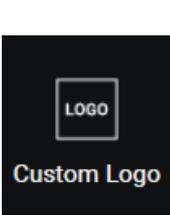
レイヤーを編集するには、右側のパネルでレイヤーの名前をクリックします。すると、そのレイヤーが中央のパネルに表示されます。矢印をクリックしてレイヤーの名前を変更したり、レイヤーを削除することができます。"+" ボタンをクリックすると、新しい空のレイヤーが作成されます。

特定のレイヤーのボタンにアクションを割り当てるには、ターゲットとするボタンに左側にある機能をドラッグ アンドドロップしてください。





画面の中央部分(最上位レベルとボタンの割り当てラベルの間)もカスタマイズ可能です。  
次のいずれかを選択できます。

Screen function	Description	Machine availability	Screen Sample
 <p>Meters</p>	マシンのメーターを表示します。	all	
 <p>Current Preset</p>	現在の Preset 名を表示します。	all	
 <p>Network params</p>	マシンのネットワークIPアドレスとサブネットマスクを表示します。	all	
 <p>Current speaker set and source(s)</p>	現在選択されている Speaker Set と現在選択されている Source を表示します。複数のソースが選択されている場合 (Sum モード)、最初の Source 名に “+” のプレフィックスが付き、表示されます。	D-MON /NOVA	
 <p>Headphone Volume</p>	現在のヘッドフォンの Source と音量を表示します。選択ボタンをクリックすると、ヘッドフォンの音量モードに入ることができ、ノブを使用してヘッドフォン ゲインを調整できます。選択ボタンをもう一度クリックすると、通常のレイヤー スイッチ機能に戻ります。	D-MON /NOVA	
 <p>Speaker solo &amp; mute</p>	アクティブ スピーカーを表す小さなグリッド (塗りつぶし) またはそうでないスピーカー (境界線のみ) を表示します。サブウーファーには “S” というラベルが付けられます。	D-MON /NOVA	
 <p>Custom Logo</p>	ユーザーロゴを表示します。“Custom logo” の章を参照してください。	all	



## 4.2.2 OTHER SETTINGS

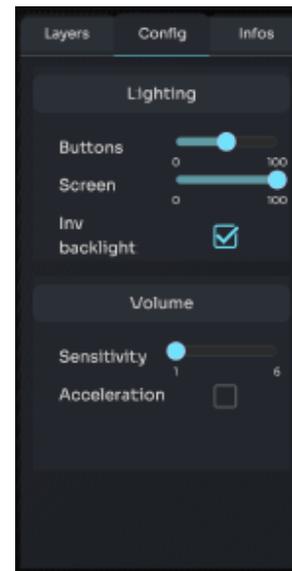
レイアウト以外にも、以下の設定が可能です:

### Lighting:

- Lighting 調整により、環境に応じて La Remote の視認性を細かく調整できます。
- ボタンと画面のバックライトの両方に個別のコントロールがあります。
- バックライトを反転することもできます。

### Volume:

- Sensitivity: ポリウム ノブの感度調整により、La Remote のメインの大きなノブの感触を細かく調整できます。ステップは 1 dB から 6 dB に設定できます。
- 高速ノブ操作でポリウムをすばやく調整できるように、加速を有効にすることもできます。



## 4.2.3 CUSTOM LOGO

103 ピクセル x 128 ピクセルのサイズのカスタム PNG 画像をアップロードできます。この画像は、「logo」機能が選択された任意のレイヤーに表示できます。

また、ボタン ラベル上で Mute が有効になったら、このロゴをより大きなプレゼンテーションで表示することもできます。これを有効にするには、右側のパネルのアドホック(ad hoc)ボタンをオンにしてください。



## 4.3.4 BACKUP & RESTORE SETTINGS

La Remote の設定は、Trinnov デバイスに自動的に保存されます。この設定を export して、後で再適用したり、別のデバイスに適用したりできます。ロゴ ファイルは export されたファイルには含まれていないため、別途バックアップする必要があります。



## Appendix

### Talkback microphone

トークバック用に内蔵マイクが用意されています。DAWIに接続すると、La Remoteは自動的にマイク入力として認識されます。この信号をモニタリングチェーンに転送することができます。Voicemeter(<https://vb-audio.com/Voicemeter/index.htm>)のような補助ソフトウェアが、この作業に役立ちます。

### Custom commands (D-MON のみ)

トリノフ オプティマイザーのあらゆる内部機能にアクセスすることが可能です。高度な統合が必要な場合やカスタムニーズがある場合には、“one-button” のショートカットを構築することが可能です。

例えば、同じネットワーク上にある外部デバイスを統合し、以下のような構成でネットワークHTTP POSTリクエストを発行することができます。

Function	Custom
Label	User
Action path	/rest
Action Type	String
Action value	<a href="http://192.168.0.10/action.cgi?relay=1&amp;state=on">http://192.168.0.10/action.cgi?relay=1&amp;state=on</a>
Busy Blinking	<input type="checkbox"/>
	Slow Blinking <input type="checkbox"/>
	Apply Close

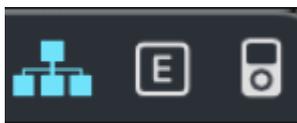
なお、このようなカスタムリクエストに関して、Trinnov のサポートチーム ([support@trinnov.com](mailto:support@trinnov.com)) に連絡すると、特定の料金が発生する場合がありますのでご注意ください。

### Firmware update

全ての機能を動作させるために、ファームウェア(内部ソフトウェア)を最新のバージョンにアップデートしてください。

アップデートを行うには次のURLにアクセスしてください。 [https://my.trinnov.audio/remote\\_update](https://my.trinnov.audio/remote_update)

### Trinnov App support



La RemoteをDAWIに直接接続することが可能です。La Remote は usb-midi と usb-audio 規格に準拠しているため、ドライバーは必要ありません。

La Remoteを使用するには、バージョン3.1以降の Trinnov アプリが必要です。最新バージョンは、<https://www.trinnov.com/en/resources/trinnov-app/> からダウンロードできます。

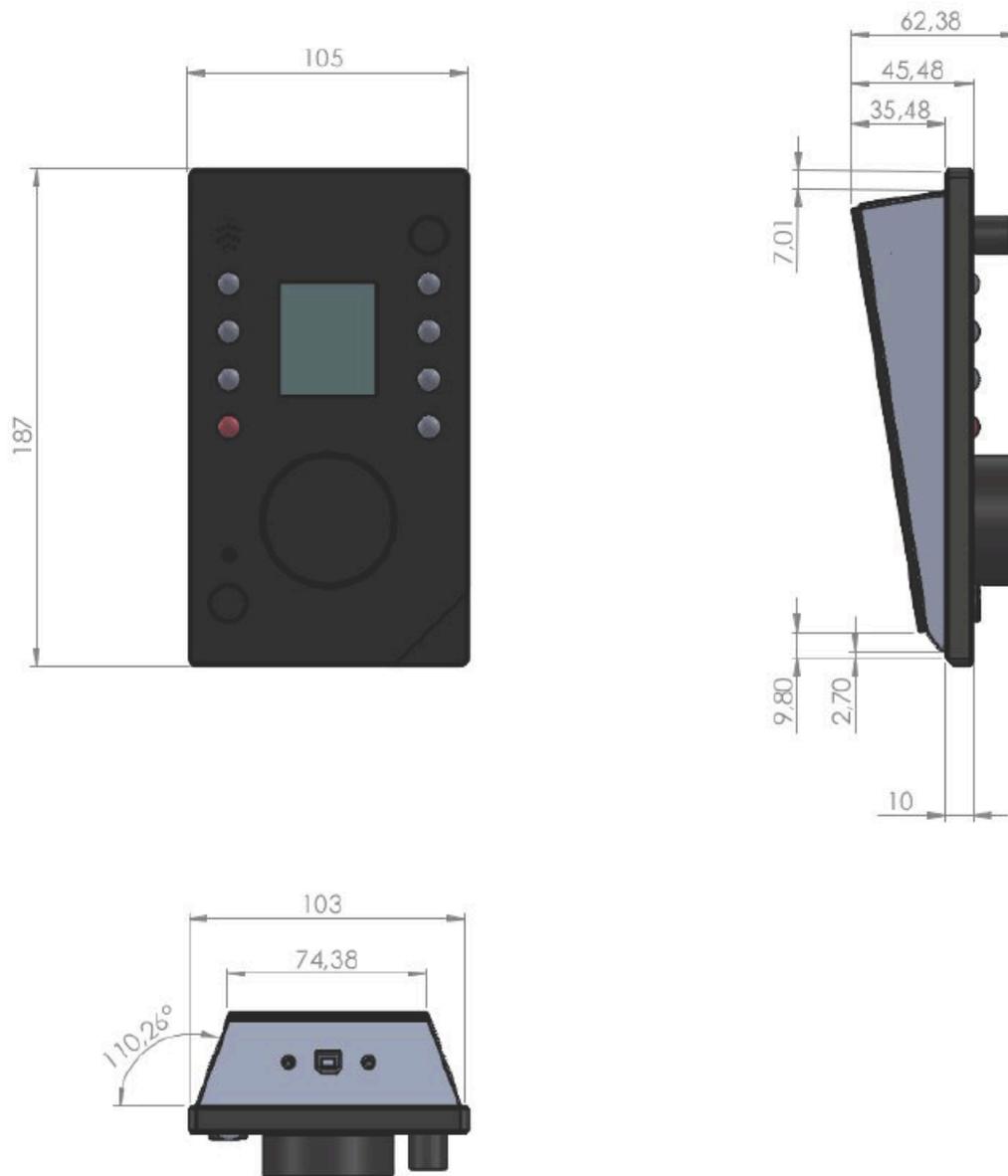


## Troubleshooting

- ❖ Trinnovプロセッサに直接接続しても **La Remote** 画面が **”welcome”** のまま変化しない。
  - ご使用のTrinnovデバイスが La Remote に対応するためには、デバイスのアップデートが必要です。アップデートを行うためには、営業担当者にご連絡ください。
- ❖ 直接接続してもリモートデバイスが **“initialization, please wait...”** の画面の変化しない。
  - La Remoteは認識されていますが、致命的なエラーで初期化が完了していません。Trinnovプロセッサの電源が入っていて、インターネットに接続していることを確認した後に、Trinnovサポートにご連絡してください。 [support@trinnov.com](mailto:support@trinnov.com)
- ❖ ボタンの組み合わせを設定したいが、**setup.html**にアクセスできない。
  - カスタムボタンのマッピングは、Trinnovプロセッサのソフトウェアバージョンが 4.x以上の場合のみ可能です。
- ❖ ロゴをアップロードしたのですが、ロゴのある選択されたレイヤーがアクティブになると、ロゴではなく **“logo not found”** と表示される。
  - La Remoteのプラグを抜いて再度プラグを差し込むと、ロゴが転送されます。
- ❖ カスタムボタンで特定の機能 **<xxx>** を使用できるようにしたいが、その機能がセットアップページの使用可能なものがない。
  - お使いのTrinnovプロセッサのソフトウェアバージョンが 4.x の場合、この問題が発生する可能性があります。お手数ですが、Trinnov サポートまでお問い合わせください。なお、このような特定のインテグレーションのリクエストには、特定の料金がかかる場合があります。
- ❖ 特定の**USBケーブル**を購入したのですが、**La Remote**が認識されなかったり、動作が安定しません。
  - La Remoteは、USB規格1.1フルスピードモードに対応しており、ケーブルの長さは3m以下となります。それ以上の長さが必要な場合は、前述の “Wiring Setup” で他の方法を選択してください。  
複数のUSB延長ケーブルを使用せず、1本のUSBケーブルを使用してください。
- ❖ コンピュータのキーボードに**La Remote**を直接接続したところ、消費電力が多いために**USBが無効**になるという警告が出ました。
  - La Remote は最大200mAを必要とするため、キーボードと La Remote の合計消費量がパソコンのUSBポートの容量を超える可能性があります。一時的に La Remote をTrinnov プロセッサに直接接続して、LEDの輝度を下げてください。また、電源付きのUSBハブをコンピュータのキーボードの前に挿入して、コンピュータの内蔵電源の消費を助けることもできます。



## Mechanical specifications



measures are in millimeters, +/- 0.1